

# 環境配慮行動に影響を与える罪悪感の正体

1190521 橋本 哲弥

高知工科大学経済・マネジメント学群

## 1. 概要

現在、地球温暖化が進んでいるといわれており、エコなどの環境に配慮した行動が推奨されている。しかしそのような環境配慮行動は全員がやっているわけではなく、ある一定の人がやっているに過ぎないことが現状である。そのため、今回の研究で人々がなぜ環境配慮行動を行うのか、その原因を探ることができれば、より多くの人が環境配慮行動を起すことに繋がるのではないだろうか。

## 2. 背景

現在環境問題についての話題が大きくなりつつあり、プラスチックストロー廃止やレジ袋の廃止などの話題をよく耳にする。このような環境配慮行動は一部だけやる人もいればいろいろなやり方もある、しかしその原理は解明されていない。先行研究で明らかにされている罪悪感が向社会的行動を喚起することが分かっているため、環境配慮行動の要因となる罪悪感を分析することで人間が環境配慮行動を行うメカニズムを明らかにできるのではないだろうか。

## 3. 目的

先行研究によって、「罪悪感は他者に害を与えたことで喚起される」「共感性が強ければ罪悪感を強く感じる傾向にある」ことが分かっている。また、「共感性が向社会的行動との関連性がある」ことも分かっている。そこで今回インタビュー形式のヒアリング調査を行い環境配慮行動の原動力となる罪悪感と環境配慮行動の結びつきを明らかにする。

## 4. 研究方法

本研究は、インタビュー対象者二名に FLORIAN G. KAISER, SYBILLE WOLFING and D URS FUHRER 「ENVIRONMENTAL ATTITUDE AND ECOLOGICAL BEHAVIOUR」で利用されていた 30 項目の質問を行い、そのインタビュー内容を書き起こし分析することにより、環境配慮行動を行う要因となるものを探る

## 5. 事例紹介

### 5.1 対象者紹介

A さん(22 歳・男性)

B さん(22 歳・女性)

環境配慮行動について私の友人 2 名にヒアリング調査を行った。

### 5.2 A さんの「人への注意行動」「電気節約行動」

インタビューの中で出てきた「マクドナルドでのごみの分別行動」「電気節約行動」の二つに注目した。

A さんはインターンシップに行った際マクドナルドと一緒に昼食をとっていた人にごみの分別を指摘したことがある。

(聞き手)他人の環境に良くない行いを指摘したことがある  
(A さん)それはま、環境によくないからっていう風に注意したわけではなくて、マクドナルドで捨てる場所あるじゃないですか？ああゆう、あれですべてを同じところになんて言うんですか、燃えるゴミみたいところにザッって捨てる人を注意というか、いやそれはどうなの？って感じで言った感じでまあ、なんだろう、環境というよりかは、マナーに反したみたいな感じで言ったんで、まあ環境を意識したわけではないかもしれないですけど、一応経験としてはあったのでハイにしておきました。

(聞き手)まあでもねえ、マクドナルドがなんでそれをやらせるかと言えばごみを分別するわけですからねえ。

(A さん)まあそうですねプラスチックとねえ

(聞き手)それは環境のためよね、という理解はあったわけでしょう

(A さん)そうですね

そこで日ごろのごみ出しとマクドナルドでのごみ分別とは何か通じるものがあるのかという質問をしたところ

(聞き手)やっぱそうやって日ごろごみをちゃんと分別するつう話とマクドナルドでの分別っていうのはやっぱ通じてるものってのがあるのかね？

(A さん)うーん、まああるんじゃないですかねえ。やっぱり自分で分別してる、まあそうですね、結構大変じゃないですか、分別。で、バイトとかやってた時もなんでもこう、ごみ箱入れる人もいたんですけど。ほんとにカンとかペットボトルを。

それをわざわざ厳しいんでね伊野町が。わざわざ取り出してこう分別しなきゃいけないですよ、しかも洗って。それがすごくめんどくさかったんで、で一気にそんなマクドナルドで捨てたら、液体とかも全部一緒になっちゃうからこれちょっとめんどくさいんじゃないかっていう気持ちもあって。

(聞き手)なるほどね。じゃあその家で、そのカンとか電池とか捨てる時もそういう伊野町でのバイトのことが頭をよぎる？

(Aさん)うーん。よぎるかどうかって言われたら、難しいですけどねえ。

(聞き手)ま、でも一応そういうのは癖になってると？

(Aさん)そうですね、もうそれが常識だという風にとらえてるので。

Aさんは、いの町でのバイト経験から、罪悪感が生まれたようだ。

Aさんは冬場はなるべく暖房をつけないようにしているそうだ。

(聞き手)暖房をつけたままにするで丸ハイになってるけどこれはいいの？

(Aさん)あ、これバツです。

(聞き手)それは、何で？

(Aさん)それはもういま現在やってるんですけど、その一結局のところ、暖房で温まる範囲ってそんな広くなくてうちの場合移動したら寒いですよ

(聞き手)何ヒーター？

(Aさん)何ヒーター？普通のエアコンですね。

(聞き手)エアコンだったら全部あったまるじゃない？

(Aさん)いや、暖まらない、いき届かないところがあすし、廊下に出たら寒いし。だからまあどうせ寒暖差があるのなら最初から着込んで自分だけあったかいようにしといた方が良くんじゃないのかなあというのと、あとは電気代がかかるのとあと、乾燥するんで。その三つですかね、理由は。

Aさん)まあなんかエアコンとかつけてたら、つけっぱなしだったら、傷みそうな感じもしますし、劣化が早まるみたいなの。つけっぱなしで稼働ずっとしてると、劣化しやすいのかなあ見たいなイメージもありますし。まあ、あとはちょっと罪悪感見たいなものがあるんじゃない、あると思います。

(聞き手)つまり電気消費すると、火力発電所のさ、燃料燃やす量も増えて、エネルギー、資源もなくなるし、二酸化炭素増

えるという罪悪感ではない？

(Aさん)そういう罪悪感ではないですね。うん。

(聞き手)今の現実の家で言うと親に対する罪悪感？

(Aさん)ま、そうですね。

このことから環境破壊に対する罪悪感ではないことが分かった。また罪悪感の対象は電気代を払っている親に対してということが分かった。

以上のインタビューより注意行動を起こした①マナー違反を放置することに対する罪悪感。②ごみを分別しなかった時の店員への罪悪感。③親に迷惑をかけた時の罪悪感。この3つの罪悪感が見て取れた。また上記の罪悪感を分析したところ以下ようになった。

①の罪悪感とは同行人の店員に対する配慮不足に対して発生した罪悪感。

②の最悪感とは過去の自分の経験から他人に迷惑がかかっていると感じたこと、他者に対しての配慮による罪悪感。

③の罪悪感とは親に負担をかけているということによる負目による罪悪感。

### 5.2.3 Bさんの「排気ガス排出行動」「電気節約行動」「水道水節約行動」

高校まで本山という自然豊かな場所で生活を送っていたBさんは、高知市内で生活を始めた当初空気の違いを体感したようだ。

(聞き手)ちなみにそれはあの本山っていうと私行ったことないんですけど、話とか写真とか見させていただき限り、非常に山がありきれいで、環境豊かで、自然環境豊かなところっていうイメージがあるんですが、そういうイメージ持ってますか？

(Bさん)そうですね、うんそうですね、環境とか自然はすごいきれいな所だと思ってます。山もそうですね、川とかはいい。そうですね、市内と比べると何がっていうわけではないんですけど、やっぱり山のその温度差だったり空気がちょっとやっぱり排気の、道路沿いだったりだとか市内は排気があるなど感じる時があったので最初は、今はちょっとわからないですけど。でも今も地元帰ったりするとま、温度差が一番大きいのかなとは思ってますけど、やっぱり冷たくて気持ちいいので、過ごしやすいかなどは思いますね。

(聞き手)その多少慣れてきた？こっちの空気に？

(Bさん)そうですね。で、それこそ大学入学して、こちらでお世話になるっていう当初はなんかいやだなんて感じだったんですけど。うん。

(聞き手)何で？空気が？

(Bさん)空気がですね。どうしてもこう自転車とかで道路沿いを走るのでそういう時にトラックとかそういうの云々関わらず、交通量が多いからですかね、なんか地元とはちょっと違うなっていう風には感じたことがあります。

(聞き手)どういう観点で？

(Bさん)それはなんかこう、

(聞き手)におい？

(Bさん)匂いです、においが一番大きいのと、うーん、なんかやっぱりさっきからちょっと言ってるんですけど、温度差があるかなと個人的に思ってるんですけど、こうあったかくてこっちが、なんかそれが個人的にはなんかあまり好きではなかったんで、なんか体がちょっと受け付けられないような感じだったので、今はほんとに何もありませんけど。で地元に戻るとやっぱり冷たいなあっていうのはおもうので、そうですね、個人的には地元の方がずっと過ごしてきたってのもありますし、いいかなとは思いますがね。

また、高知市内に住み始めてから少し環境破壊につながることは増えたという認識もあるようだ。

(Bさん)路面電車とか本山にはないものもあるのでそれ使うことで公共交通とかだったらまだいいんですけど、その本山にいたところと比べると環境破壊につながる行動っていうのはちょっとしてるのかなっていう風には思ってますね。

Bさんは自然環境豊かな土地で育ったせいか、環境について考えることがあるようだ。

BさんもAさんと同じくエアコンの使用はなるべく抑えるようにしているようだ。

(聞き手)これあの冬セーター着なくてもいいように暖房をつけたままにするはペけて知れるんですけど。暖房はあんまり使わないように気をつけるってことですか？

(Bさん)つけっぱなしにはしないんですけど、もちろん寒い時は使うんですけど、あったかくなったらいったん消したり、あとはブランケットで無駄な電力じゃないですけどあんまり使わないようにしていますね。お金もかかりますし。ま、微力ながらやっぱり環境に良くないものもつけてたら出ると思

いますし。

(聞き手)なるほど、それとあのごみのポイ捨てっていうのは基本的には別の話なんですかね？

(Bさん)そうですね、無駄遣いをしないっていうのと、ちゃんと分別したり環境を汚したりしないっていうのはちょっと意味は違うかなとは私の中で思ってるんですけど、そうですね、でもそれが繋がる場所があるとすれば、結果的に環境に良くないものっていうのは私たち、これからの人にとって良くないものだと思うので、その良くないものを生み出すことはあまりしたくないとは思っています。

Bさんはお金のことも言っているが環境についても触れてきている。環境破壊に対して罪悪感を感じているようだ。

やはり自然豊かな環境で生まれ育ったことが関係しているのかもしれない。

Bさんの電気の節約は環境によくないことをしているという罪悪感から生まれていた。それと同じように、水道水を節約することにも環境と関連がある部分が見て取れた。

(聞き手)でも例えばさっきのその水の水も有限な資源だった時に、例えばそういう育った街の風景がどこか頭の片隅にあるってことはあるんですかね？

(Bさん)いつも考えているわけではないんですけど、やっぱり地元にいるときは水がこう雨が降らなかつたりして水がなくなるとダムがあって、でそのダムの水がなくなっている風にとんどん連鎖的に話が、聞いたことはよくあったので耳にしてたので、だからっていうのはないんですけど、うーんもしかしたら自分の頭の中でそういうのがイメージとしてあるのかなとは。

インタビューの中で地元のダムの水がなくなるということと水道水を節約することの関連が見て取れた。

以上のインタビューよりBさんの罪悪感は①「便利な生活を享受する罪悪感」②「未来の不特定多数の人への罪悪感」③「地元の豊かな自然環境に対する罪悪感」の三つが見て取れた。また上記の罪悪感を分析したところ、以下ようになった。

①の罪悪感は地元にいる時よりも便利な生活を送っているうえでより排気ガスを出しているだろうという罪悪感。

②の罪悪感は将来を見据えた時に自分の行動が他者に対しての配慮による罪悪感。

③の罪悪感とは地元の豊かな自然環境を知っているが故に起こった罪悪感。

#### 5.2.4 AさんとBさんのまとめ

六つの罪悪感を二つの切り口で分類したところ「ある思いを持っている自分」「他者」「過去の他者」という三つの対象と「他者への負担」「自分の良心」という二つの原因に分けることができた。

	罪悪感の対象	どういう実害を与えたか
A①	正義感を持つ自分	正義に反する行動をすることによる良心の呵責
A②	知人に代わってごみを分別することになるマクドナルド店員	知人の環境不配慮を埋め合わせさせること
A③	両親	自分の快適さの追求と環境不配慮によって生じさせた金銭的コスト
B①	不便な田舎で暮らしていた時の自分	利便性の追求に伴うCO <sub>2</sub> の排出による良心の呵責
B②	将来の人々	将来の人々を取り巻く自然環境の悪化
B③	豊かな自然環境	豊かな自然環境の恩恵である水の無駄遣い

## 6. 対策と提案

結果から「他者」への「何らかの後ろめたい気持ち」が環境配慮行動を促進することが分かった。

罪悪感による向社会的行動が環境配慮行動にも当てはまること分かった。

以上のことから、共感性を高めるような教育を行えば人々の環境配慮行動を促せることがわかった。

## 引用文献

「罪悪感、羞恥心と共感性の関係」有村興記  
心理学研究 2006年 第77巻 第2号 pp.97-104

「小学6年生における罪悪感と共感性、向社会的行動の関連について」石川隆行 2006年日本心理学会大会発表論文